



すべての原発を直ちに止める

1000万筆署名にご協力を

**新入生の皆さん。入学おめでとう！
ともに社会を革命しよう！**

3月11日に起きた東日本大震災と原発事故は、今の社会をもっと早く、力強く、広範に、根本的に変えなければならないことを明らかにしています。地震が起きて、本来自然には発生し得ない放射性物質がいちばんの問題になっていること、人の命より原子力の方が優先されていること、矛盾に満ちたこの資本主義社会の延長上に未来はありません。私たちの手で新しい社会を作る運動を始めましょう。運動を妨害し、立ち上がる学生を押さえ込むもの全てをうち倒しましょう。全学連は、京都大学、法政大学をはじめとして、全国の大学・街頭で学生運動をやっています。学生の力で大学を変え、大学から社会を変えよう。

「謝罪の意」など皆無の東電資本を許すな

これ以上の被害拡大を防ぐため、福島第一原発では今も現場労働者が命を賭けて闘っています。しかし、東電資本は彼らのことを表向きでは英雄として持ち上げながら、実際には会社を倒産させないための駒とし

てしか見ていません。作業現場で、放射線の量を量る「線量計」を、一部の作業グループでは代表者にしか持たせず、多くの作業員が危険性も認識できない状況下にあることが明らかになっています。一方で金融機関から2兆円の融資を受け、地元住民の強烈な反対を押し切って5、6号機と第二原発の運転再開費用や社債（借金）の支払いに当てようとしています。労働者の決意や誇りを食い物にして、会社だけ生き延びようとしているのです。東京で闘う全学連の仲間は東電本社前で毎日ビラを撒いています。東電社員が次々と受け取っています。労働者を殺して生き延びる会社など、労働者自身の怒りで潰す以外にありません。

原発政策を推進し続ける菅政権を倒せ

危険性があらゆる面から指摘されていた原発政策を推進してきた自民党・民主党政権の責任は重大です。菅政権は昨年6月に発表した「新成長戦略」の中で、「世界一安全な日本の原発」を海外に輸出することが日本経済再生の道だと言い切りました。そして、原発に反対してきた労働組合などを押さえ込んで、電力資

全日本学生自治会総連合

委員長：織田陽介

kgakuren@yahoo.co.jp

全学連

本と一緒にあって原発政策を推進してきました。事故が起きてからも、何度もテレビに出てきて言うことは「危険性はない」「直ちに健康に被害はない」ということばかり。原子炉を維持するために海水の投入を遅らせるだけでなく、東電資本を守るために増税して国有化するなどとも言い出しています。

そもそも、福島第一原発の原子炉はアメリカの電力大手・GE（ゼネラル・エレクトリック社）の技術を引き継いだものであり、その危険性については設計した技術者自身が40年以上も訴え続けていました。GEと東電と菅政権はこの声を黙殺し、はじめから危険な原発を金儲けのためだけに動かし続けてきたのです。許しがたい嘘をつき、今なお原子力政策を何が何でも押し進めようとしている菅政権は絶対に許せません。

大学に主体性を取り戻せ

学生として、原発を推進・容認・黙認してきた大学の原子力研究者にこそ怒りをぶつけなければなりません。東京大学は東電から毎年5億円の資金援助を受け、「核燃料サイクル社会工学」など、原発政策を推進するための「寄附講座（寄付金の額によって企業が行うことができる講義）」を開き、原発に賛同する教授連中を組織してきました。こいつらは福島原発の現状を「説明」するためになんどもニュースに出てきますが、原子力研究者の一人としての自分の立場・責任には何一つ触れません。これが学問に対する主体性が欠落した科学者の姿です。

なにも東京大学や、教授個人だけの問題ではありません。2004年に大学が法人化されました。大学は国からの予算に頼れなくなり、独自で採算を考えなければならなくさせられてきました。以降、全国の国立大学は多かれ少なかれ大資本の言いなりになってきたので

す。京都大学でも寄附講座が行われ、みずほ銀行の社員などがきて、金で金を作る方法を講義しています。東京の法政大学では、正門前でのビラまきが「営業妨害」、休み時間中の演説が「授業準備妨害」とされました。1700筆の抗議の署名や、教授会の反対意見を無視して、総長トップダウンで学生に処分が下されています。

「自粛」支配をぶっとばせ

これらすべての問題はすべて「新自由主義」が引き起こした問題です。電力も大学教育も、社会の発展にとってなくてはならないものですが、最大・唯一の問題は、それが金儲けの対象とさせられていることです。全学連はこの「新自由主義」の社会を変えるために運動し、力ある組織を作ってきました。

いかに儲け続けるかという資本の運動ではなく、いかに社会を変革し発展させるかという人間の主体的な運動で物事が進んでいく社会を作らなければなりません。そのために立ち上がる学生・労働者を押さえ込むもの全てを団結してぶっとばしましょう。

各国の帝国主義者は、私たちに対しては「自粛」を「強制」する一方、自分たちの支配の継続のためには全く自粛などしていません。中東の石油支配のために米英仏がリビアを空爆しています。沖縄の米軍基地から軍用機が飛び立っています。都知事・石原は「花見禁止令」を発し、「戦時中の日本人の連帯感は美しい」などと言い出している！

日本の学生が、原発の存続を、米軍基地を、戦争を許すのか、世界が今注目しています。原発を廃炉に追い込み、新自由主義に断を下し、戦争を阻止する運動を、怒りと団結をエネルギーにして爆発させましょう。全ての新生は4・14講演会に集まろう！

吉田義久氏 講演会に集まろう

吉田義久氏 講演会

とき：4月14日（木） 5限後

ところ：吉田キャンパス本部構内の教室

さんか：どなたでも可能。入場無料。

（ 詳細は再度ビラなどでお伝えします ）

講演会後、交流会を予定しています。

大学奪還学生行動（反原発署名運動）実行委員会

定例会：毎週水曜日 5限後、吉田食堂裏BOXにて

新生大歓迎！



吉田義久：物理学者。相模女子大学元教授で核問題研究情報センター所長。日本の核戦略、原発政策に反対の立場を鮮明にし、全国各地で講演会などの活動が続ける。